

鉱山災害及び鉱害の撲滅を目指して

～令和元年度全国鉱山保安週間の実施に当たって～

令和元年6月7日

関東東北産業保安監督部東北支部長 杉本 信吾

各鉱山におかれましては、日頃から災害防止、鉱害防止に鋭意取り組まれ、また、鉱山保安行政に御理解を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

今年も、7月1日（月）から7月7日（日）は全国鉱山保安週間です。

全国鉱山保安週間は、鉱山における自主保安活動を推進し、保安意識の高揚を図るとともに、広く国民の間に鉱山保安に関する認識及び理解を深め、もって危害及び鉱害の防止に資することを目的として昭和25年から毎年実施しているものであり、今年は今和となり初めてとなります。

さて、平成30年の災害状況を振り返ってみますと、全国における鉱山災害は39件、り災者は26名と、昨年に比べ5名減少しました。死亡災害はゼロとなりましたが、災害度数率1.22、重篤災害の度数率0.94となり、残念ながらそれぞれ目標である0.70及び0.50以下の達成には至りませんでした。また、東北管内における鉱山災害は3件、り災者は2名で、災害度数率は0.89となり、残念ながら目標の0.50以下を達成することはできませんでした。

災害の事由をみますと、全国では第12次鉱業労働災害防止計画期間と同様に、車両系鉱山機械、自動車、コンベアを含む「運搬装置のため」、「墜落・転倒」、「取扱中の器材鉱物等のため」及び「機械のため」が全体の約7割を占めております。東北管内についても、災害によるり災者は、それぞれ「墜落」と「ベルトコンベア」によるものとなっており、これらの災害に対する保安措置が重要であると考えています。

これらの状況を踏まえ、当支部の今年度の目標は、前年度に引き続き「死亡災害ゼロ」と「災害度数率0.50以下」として、鉱山保安マネジメントシステムの導入促進及びより最適なシステム運用の深化を図り、また、ヒューマンエラーによる災害や発生頻度の高い災害を防止する取組を推進していきます。各鉱山におかれましては鉱山災害をゼロとすべく、引き続き取り組んでいただくようお願いいたします。

一方、鉱害の発生状況を振り返ってみますと、風水害を含めた鉱害報告案件が全国で6件発生しました。そのうち東北管内では4件発生し、当支部の目標であった「鉱害発生ゼロ」を達成することはできませんでした。鉱害の撲滅には、各鉱山において自然災害等を含む、鉱害発生リスクを十分に検討・評価した上で、計画的な設備更新等、継続した改善の取組が必要となります。各鉱山におかれましては、引き続き、設備の維持・管理体制を万全にし、事故の未然防止に努められますようお願いいたします。

今年は令和という新たな時代を迎え、鉱山災害及び鉱害の撲滅に向かって関係者が気持ちも新たに保安の確保に取り組んでいく最初の年であると考えております。各鉱山におかれましては、是非この鉱山保安週間に、自主保安活動の実施状況を再度確認し、保安確保のためのより一層の取組を実施されますよう重ねてお願い申し上げます。当支部としては、引き続き、立入検査等を通じて各鉱山の実情に応じたきめ細かな監督・指導を実施していくとともに、全国で発生した鉱山災害等の情報の提供、鉱山労働者を対象とした研修の実施などにより、皆様の鉱山における災害・鉱害の撲滅のために支援をして参る所存です。

引き続き「ご安全に！」